(十四日夕刊)
磐城新聞
休刊 大祭日第一日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料 一行五十錢(指定廿錢增)
發行兼編輯印刷人 連沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

戰爭繪的な風景
——詩に就いての簡單な決算報告

平田哲

1 僕の題は明かに詩誌「らつぱ」の第四輯(十二號)の表紙を指してゐる、そして讀んだ人は、あゝあれか!と直ぐ合點することゝ思ふ。一寸面白い繪だが、つまらない子供だましの繪のやうでもある。之を描いた詩人長瀬はどんな意圖の下に之を描いたのか知らない、たゞ藝術的な創作慾が彼を馳り立てゝ描かせたのかも知れない、だが僕は極めて勝手な解釋をしてその繪を眺めてゐる。どんな解釋か?——僕はそれを説明させてもらはうと思ふ、それで僕は先づ「らつぱ」を讀みかへした。

2 目次を見ると貧弱だ。永崎貢、猪狩澄江、長瀬陸兵の三人きりだ、僕は素直に、一通り讀んだ。そして編輯後記を讀み、も一度最初から讀返した。つまり二度讀んだのだ——僕はそして「らつぱ」を讀む人々に少くとも二度讀んでもらひたいと思ふ。だが、こゝでは繪の説明をせねばならぬので簡單に編輯後記から見ることにしやう。

永崎は炭山を背景とした最下層から、猪狩はどん百姓の憎人生活から、俺は(長瀬)強制二重人格養成所から各々社會の第百階級を代表して武器喇叭に馳せ集まる

兎に角、これが解説である「らつぱ」はこゝに自己の方向を示してゐる、けれども憎人生活(?)だの、強制——(?)だの、第百階級(?)だのと妙な言葉が並んでゐる。それからは表紙 繪を關係であるだらうか!

3 永崎の詩「峯人の消息」は待つてゐた詩の一つだ。それは讀んでゐる中に、諸んでゐるのだか、怒鳴つてゐるのだが、わからなくなるやうな詩だ、人の心に何物かを捕へさせずにはおかない。多かれ少かれ、われ〳〵の生活と交渉のある炭山の坑夫がしやべつてゐると云つた工合だ。そして。こんな詩がわが石城の詩人たちの搖籃であつたことは、(たとへ貧農の叫びにせよ)誇るべきことであらう、そしてそれは現在、もつとはつきりした目的意識的な詩の形式として、プロレタリヤ叙事詩として、プロレタリアートの中から絶ねずうたはれ始めてゐる。「峯人の消息」はしかし、尻切れトンボのやうに尻がない、最後の行——ためいも歴史の卒塔婆だ、んだど!が餘り突然すぎはしないだらうか炭山勞働者の詩がやつと波立一や、永崎貢等々によつてうたはれ出したのは喜ばしいことだ、それと共に三野混沌が近頭活躍しないのは淋しく思はれる。或は彼は草野心平と共に「學校」で活躍してゐるのかも知れないが。

4 次は猪狩の詩「收穫と俺」これを僕は「らつぱ」第四輯の最大收穫とする。秋それは貧乏などん百姓には喜びよりも脅嚇だ——仕事に追はれ、天氣にいちゝられ、全く綿のやうに疲れてゐ、たれだもだ………おれたち、ざぶ〳〵の田甫の中で、何を考へやう?殘された稻のことか、今晩のコメのことか廻つてきた納税のことか……「足が云ことかきかなくなつて胴ッ腹た歩いてゐた—と表現されときフザケた誇張だなどゝ笑つてゐられようか、生々をはつきり僕たちの心臓を突いてくる力はどこにあるのであらうか、新らしい詩人はそこに出發點を見出さなければならない。猪狩はこれらを提げて一九三〇年に突貫するにちがひない長くなりすぎて長瀬の詩を忘れてはならないのだ。彼のし「小僧のし」その他はまた、感心するほど才のヒラメキを見せてゐる。簡潔な表現力は彼の武器である。この二人のし人にも亦多分の缺點は認められる。殊に後者は題材を新らしい面に求めることに於てより鋭いメスを握ることが必要だ。………

明日の曆
舊曆 十一月十五日
新曆 十二月十五日

▲一白の人 そろ〳〵進めて道々に人の助けも加はり來る▲二黑の人 油斷も隙もならぬ日殊に賣買は注意を要す▲三碧の人 苦りよするよりも識者に問ふが早くて且つ安全▲四綠の人 内に和合あれば運氣整ひ順調に發展すべし▲五黄の人 心のみいそげども駒は進まず運氣來復をまて▲六白の人 陰氣に閉され些末の事まで心の苦となる日▲七赤の人 輕卒をいましめ牛歩をとれば平坦の道に出づ▲八白の人 世話事は免れ得らるゝ丈け免るゝ方が安全▲九紫の人 幸運の日なる故何事も進んでよし飲食は注意

講談
幕末奇傑 高山彦九郎 (22)
中西洋々作　布施長春畫

郷關を出づ (二)

「して、路用の金子など、用意はあるのか」

暫くして、叔父は、やさしい親愛の情に滿ちた聲でたづねました。

「いゝえ」

彦九郎は、響きのものに應ずる様な、雄々しい聲で答へました。

「もとより、路用の金子など、一文もございませぬ。祖父様より無斷借用いたしました、この備前兼光、菊一文字の兩刀、これを心に志を同じうするものから、憂國の至情を語つてゆく上には、一文の金子も必要之なきかと心得ます」

「うゝむ」

長藏は、たのもしげに打ち見やり乍ら、大きく頷きましたが。

「その志は天晴ぢや、そちの云ふ心はよう分るが、それは、あまりに無謀といふもの、旅に出ては第一に必要なものは金ぢや幸ひこれに高山にもつてゆくべき金がある程に、これを、そなたに餞けしよう。」

「でも、それでは、あまり………」

「いや、遠慮するには及ばぬ、高山には、明日改めてわしから届けてをく故、心置なくとつてたくがよい」

小判で十兩、彦九郎は、叔父の好意と共に有りがたく押し戴いて、懐中に納めました。

「それでは、叔父上」

彦九郎は、心急ぐまゝに改めて、別れの挨拶を述べようとしました。

「あゝ、行くか」

「はい」

「いや、待て、わしも家へ飯のから、そこ迄、一緒に行かう」

長藏も、流石に別れのつらい思ひにとらはれて、さういつて、彦九郎と細い道を、ぴつたり身をつけて、もと來た道を引き返しました。

「で、先づ、最初の目的地は?」

長藏は、歩き乍ら、かう話しかけました。

「先づ、江戸に出で、德川將軍の治世ぶりを見て來たい所存にございます」

「ふむ、それはよいぢやらう。後日の爲ともなることども、世故に泣く民の聲を聞いておくのもあながち無用のことでもないから喃。して、それから?」

「はい、それから、京に上り、中井先生始め、勤王の儒者方について、仁義の道を學びたい考へにございます」

「ふむ」

「幸ひ、京には、御父上御在世の頃、お目かけられました、廣瀬屋幸兵衞と申す商人がございます故、それを頼つて、草鞋のひもを解きたく考へてをります」

「たゝ、それは、何より。廣瀬屋と申せば、わしも兼ね〴〵兄上より聞いてゐた何か、勤王の志厚いものといふこと……」

「はい、かねて、私が勤王に志してゐると聞き、太平記を送つてくれましたのも段、町人に似氣なくまことに頼母しい心根のものにございまする」

語りゆく程に、いつか彼らは劔持家の前に來て居りました。

「それでは、お父上」

「おゝ、もう、別れねばならぬのぢや喃」長藏も感慨深く立ち止まりました。

「では、これにて、お別れいたします」

「さうか」

「祖父様、兄上、わけても祖母様によろしく申し上げて下さいませ」

「うむ、その方は、必ず共に心配いたすな、そなたなき間は、この長藏がそなたとも二人分の孝養いたすであらう程に」

「はい、有りがたうございます」

彦九郎には、それが何よりの強い餞けの言葉でした思はず感謝の思ひにとざされて深くかうべをたれました。

「それから、お父上、叔母上のもの、ございます程に、佐吉一家のものにも時折のお言葉をつかはされて下さりませ」

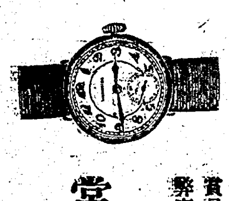
「たゝ、承知致した、心置きなく行くがよい」

夜間診療
胃腸 梅毒
内科 十二指腸虫病 專門 內科部
淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

新荷着ト商品全部値下
貴金屬 金側寶石入アンクル腕時計 十貳圓ヨリ
クロム側寶石入アンクル腕時計 六圓ヨリ
八金 石入 指輪 四圓ヨリ
時計 精工舍裝〇S印目覺時計 貳圓ヨリ
眼鏡 精工舍製美術硝子置時計 貳圓ヨリ
蓄音器 商事會社製八日卷掛時計 五圓ヨリ
外保險付額安品澤山入荷
歳末ノ御贈答品ヲ是非
皆樣ノ 金光堂時計店へ 電七三六
◎時計蓄音器修繕ハ早ク良ク安ク致シマス

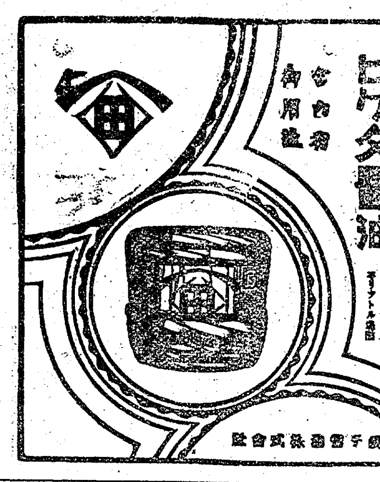
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一(電話五五九)

期間 十二月十五日ヨリ 十二月卅一日マデ
賣切の節は何時にても打切り

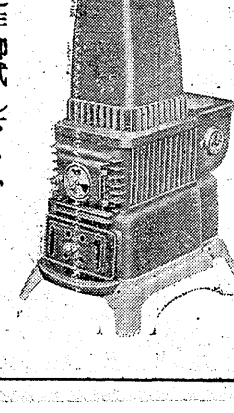
大福引付時計大廉賣
奉仕的に!! 大犠牲を拂ひ
弊店にて金五圓以上御買上の御客様に對し左記大當り福引券、もれなく差上げます
一等當リ 十八金側スキス製十五石入腕卷時計 五本
二等當リ 銀側スキス製寶石入懷中時計 二十本
三等當リ 銀側スキス製寶石入腕卷時計 七十本
四等當リ 銀側スキス製寶石入小形懷中時計 一〇〇本
五等當リ ニツケルスキス製寶石入小形懷中時計 二〇〇本
六等當リ 正確無比の小形置時計 四〇五本
全部空籤なし
賞品は全部賣品の新品にて弊店保險付

平町一丁目 常盤屋時計店 電話三三九

毛糸編物講習
生活改善は衣服から
消費節約も衣服から
發育盛りの小供には
毛糸編物が第一
夜間輕便文化器の
編物を無料講習致して
居ます、どうぞ
御遠慮なく御出で下さい
平町田町 藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

營業種目
內地材 材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達
請負 其他
(百) 佐藤材木店
常磐線平町新川町 電話三三五番



特約店 平町田町 廣瀬支店 電話五四番

暖爐界之征服者
ネンシヨウストーブ
經濟的連續完全燃燒
消費節約
火防衛生
優美堅牢
簡便を欲せらるゝ御方は是非御試し下さい
御請求次第カタログ進呈

(久) 釜屋商店 電話九一三九番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なりにて社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所 電話六〇三番 五四一番

外科 醫學博士 藤本順
産科 婦人科 院長 木村寅次郎
平町新川町 木村病院 電話一六四番

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五 中瓶三五 大瓶五〇
平町五丁目角 大販賣店 山野邊藥局

偽せの保證人を伴れて弟の葬儀料百圓を詐欺

日給一圓の雇女が署名捺印

◆—平町に新手の詐欺事件

飯野村大字荒川字諏訪下大和田喜幸(五九)は去る九月十八日平町七丁目金貸業三宮金太郎方に來たり實は弟が死亡したので埋葬金に困るから百圓だけ貸して貰ひたいと涙を流しての願ひなので飯野村の鈴木秋光が保證になるなら貸してもよいと答へたところ大和田は翌日再び訪れ鈴木は目下不在なので鈴木の妻女をつれて來たと稱し三十五、六の女をつれ込み保證捺印させ百二十圓を借した其の後返濟せぬので探索した處件れの鈴木の妻とは眞赤な虚で實は日當一圓で雇入れて來た僞證人である事が發覺し十二日平署に告訴され逮捕取調べた處大和田は前科八犯の詐欺常習の男で女を手先に使ひ前記同様の手段を以て十數件の詐欺をはたらひた事を自白したが巧妙な新手の詐欺事件として平署は取調中

郡下小學校 就職斡旋

平紹介所活動

石城郡下に於て來春小學校を巣立つ者の中には中等學校に向つて進む者も多數あるであらうが少さな足並を以て社會に飛び出す者が相當あるので郡下の小學校では平校を始め他の十一校が平職業紹介所と聯合し本年卒業生を斡旋するため來る十九日午前十時より平町役場に於て校長並に職業紹介所長の打合會があると

平町の料理店が淋れ行く原因

藝者置屋も眞劍に 某消息通の談

平町地方に於ける景氣の好不况を測秤する新田町中心の花柳界の昨今を見ると本紙既報の如く去る一日より十日間の稼ぎ玉高僅か三本を越さぬ藝者が十數名あつた[illegible]如何に其の甚だしいかを知るに容易であるが之の影響は獨り藝妓置屋のみならず寧しろ

料理店に 甚だしき打撃を與いてゐる、新田町中心の料理店並に藝妓出入の旅館の繁榮は自然と西洋料理店から所謂腰掛茶屋乃至は南町の酌婦置屋に客足を奪はれてゐた、之れは不景氣の齎らす餘儀ない結果ではあるが一面から觀察すると平町の料理店は千篇一律的に何等設備と待遇の上に新味を加へず殊に酒、料理代の如き物價下落の今日尚ほ大正八、九年當時の相場を以て律し親父の金を掴み出して湯水の如く蒔きちらす遊次郎を以て顧客全体の

心理を考 へざる結果自然と客足が遠ざかつて行く事實も相當考りよすべき事である、前平税務署長岡部氏の本社に宛てた情報によれば同氏の現任弘前市の料理店組合では去る十一日より地方銘酒一本三十錢、大阪酒一本四十錢の各等十五錢を値下けした外料理代も三割方の値下げをした事實がある、料理店の不振は直接藝妓置屋に及ぼす處多く此の點については

兩者間に 可成り研究されてゐるから平町の花柳街も人氣好轉の一手段として差し當り飲食物代の値下げを見るものであらうと某消息通は語つてゐた

鮫川疏水の復活を說く

古川傳一氏巨彈を投ぐ

本縣々會第十四回目は十三日午後一時五分から開催傍聽席には縣立信夫農民學校生徒や信夫岡山小學校男女生徒などで陣取る

古川傳一氏 登壇し鮫川そ水復活問題に關し先に地方民と共に陳情したる際縣當局は愼重調査の上近き將來にたいて何か考慮しやうとの回答であつたが一部には奇怪な噂さへ傳へられてゐるがで更にこの場合縣の辯明を求めたいと前提し「鮫川疏水は廿四ヶ町村の管區で七百餘町歩の用水で三十餘年前縣の勸獎によつて疏水組合を組織し工事したが一滴の水も通水する事なく地方民は徒らに舊債償還のため今尙廢墟の如き慘骸を眺めながら苦るしんでゐる、その後大正八年にこれを復活せしめる事を條件として創立した鮫川水電會社は地方民を騙つて株主とし莫大な金を募集しこれを雲散霧消しながら全く企業の意志なく現在ではその所在さへ判明しない有樣であるこのため地方の失つた金額は實に八十萬圓の多きに達してゐる然るに五年度において縣は阿武隈川及本宮の兩農業水利改良工事が施行されながら僅三十餘萬圓の豫算を以てこれが復活をする事が出來鮫川疏水のみ豫算に計上せられなかつた事は遺憾に堪ない傳ふるに處によるとこの方面には政黨的關係が潛在してゐるといふが果して事實か」と問ひこの點については特に知事の答辯を乞ひたい更に疏水と離るゝ事の出來ない鮫川水電會社が企業の意志ない處から約束不履行の故を以て曩に與へた同意をそ水側で取消したら縣は之を水側の既得權を自發的に失效して取消すかと質せば

小柳知事 登壇し事業の性質及びその將來などを考慮しなるべく早く豫算に計上したいと思ひ自分が赴任早々實地踏査をなし又鮫川そ水の管理者である縣の事務官を各方面に派遣し復活の途を種々辿りつゝあつた而し離るべからざる水利權問題を解決せねばならぬので本豫算編成までにはその運びに至らなかつたので遂に計上されなかつた事は遺憾に堪ない傳ふるが如き政黨關係は全く事實無根である、この問題は超黨派的に本縣の福利增進のために考慮を拂つてゐるのでかくの如き說は流言蜚語である事を承知ありたいと答へ更

內務部長 登壇し同意した一方が取消だからとて既得權を取消す譯はないが同意を取消た際に行政官廳としては如何にすべきかは考慮せねばならぬと考へてゐる、如何なる處分をするかは愼重考りよの上でしたひと答へたので

古川氏 は更に「同意を取消したとて既得權も消滅しないと承知しても宜しいか」と、問に對し「消滅しない」と內務部長は答へる處あつた

平町の紹介所を等閑視すは殘念

各炭礦の坑夫雇入れに 紹介所側の不平

平町にたける職業紹介所は炭礦を中心として設置されたゞけあつて內務省方面にたいてもその業績について少なからず注目してゐるが實際における

同紹介所 の業績は期待された程でなく寧ろ炭礦方面への紹介斡旋はその他と比較し第二位か三位にある始末で紹介所は無論の事中央事務所にたいてもこの不可思議なる原因に非常に頭を惱まして居り過般の全國職業紹介所長會議にも炭礦所在地の紹介所間に種々善後策を試みられた程であるか會議より歸町した伏見所長はこの原因は十大炭礦では紹介所の紹介を快よしとせず氣まゝに求職者を雇へ入れ：爲た結果からで炭礦側としてはその間に或る種の弊害を醸し又紹介所側でしても充分本能を發揮する譯に行かぬ關係に陷かれてあり炭礦側がこうした傳統的雇傭關係を廢止して充分紹介所を利用すべきにあらざればこの問題は

容易に解 決し得ないとしてその旨を炭礦方面に通達した程であるが近く炭礦側の關係者とこの點について協議する筈でこの問題さへ解決附けば幾十人の失業勞働者が紹介所に押し寄せるともびくともしないと若い紹介所事務員は語つてゐた

水島聯隊長

けふ磐中査閲

若松聯隊長水島大佐は昨十二日安田少將と伴に來平し十四日磐中の軍事教練を査閲し明十五日双葉中學校生徒査閲の爲め新山に向ふ

赤井嶽の參道と鹿島街道の改修

何れも火急を要する 石城樞要の道路

平町と小名濱町を連絡する最も短距離の縣道鹿島道路は路面極めて惡く近時小名濱商港修築工事を行ふに當り材料その他の諸貨物の輸送はこの縣道を利用するこどが最も經濟的であるにも拘らず今尙自動車さへ通行出來ない有樣であるために鹿島地方民は平にも小名濱にも出掛けんとせば徒歩によらねばならない程の不便さであるから之れが路面を速かに改修し文明の交通機關である自動車の通ずるやうにして貰ひたいと山崎縣議は鷲外七縣議の贊成を得て今期議會に改修の建議案を提出してゐるが更らに若松、鷲縣議から須藤外七縣議の贊成を得て提出された石城郡赤井嶽表參道の縣道編入の建議案は磐越東線小川郷驛から舊郡道赤井街道により赤井驛に達する路線中から分岐して進別格本山赤井嶽藥師堂に通ずる延長二里十六町であつてこの種なる千葉縣君津郡秋元村鹿野山神野寺へは三線の縣道があり又栃木縣下都賀郡寺屋村出濟山は寺格が一段下つてゐる赤井嶽は本縣中の名刹で會津の柳津と共に二大靈場に屬し既に柳津は縣道に編入されてゐるからといふにある

行衛不明

入營兵士が 家人が搜查願

小名濱町古湊磯崎次郎(二二)は甲種合格本年度入營兵であるが行衛不明で入營出來ぬ爲め家人は搜查願ひを出した

小泉遞相通過

小泉遞信大臣は明十五日午前二時五十分仙臺に向ふ途中常磐線平驛を通過すると

平町南裏の補償金收支

本年度の決算

平町南町裏市街道路設定實行委員會の昭和四年度の收支決算は左の如く委員長山崎與三郎氏の名で發表された

△收入の部

總收入一萬九千百二十二圓八十錢內(賠償金)一萬六千四百九十八圓八十錢(寄附及び交換地賣上金)二千六百二十二圓

△支出の部

總支出一萬八千九百三十八圓八十一錢內(補償金)一萬八千五百二圓卅九錢(交換地理立代金)四百三十六圓四十二錢

△差引殘高

現在金百八十三圓九十錢

勿來で五十一件縣下を荒し廻る

梁川町生れの林藤悅 平署に檢擧さる

平署管內の石城郡勿來町にたいて怪盜頻出し一夜三四件にのぼる被害があるといふので同署の敏腕刑事が躍氣となつて八方搜查を開始した結果伊達郡梁川町字北本町六生れ當時住所不定無職林藤悅(二六)といふ男を唯一の容疑者として引致取調たところ果せるかな勿來町に於る五十一件、價格五百五十餘圓の衣類現金等を竊取したこと自白したが此の外一昨年九月頃橫濱市峰岡町富士紡績會社々宅橫山寅藏方ほか二軒に忍び入り衣類現金價格百五十餘圓を竊取した餘罪も自白した

寺の溫室

四倉如來寺で

四ッ倉町如來寺境內に此程山形技手の設計により工費三百圓にて溫室が完成したが幅二間長さ四間にて近郷には珍しいと近く住職小松氏は珍花類を集め一般に觀覽せしむると

昆布の製造職工が手當り次第盜む

先づ主人の家を初め 四倉署に捕はる

四倉町字仲町切昆布製造職工吉田武(三〇)は同町本町字蠣川切昆布製造業本多辰吉方雇はれ中去る十二日午前一時頃同工場內の窓を破つて忍び入り切昆布一俵時價八圓五拾錢を竊取した足下二時頃同町仲町菅原金藏方軒下より鮮魚八貫目代價三圓二十錢を竊取したことを發覺四倉署員に檢擧取調べた結果、去る十日午後五時頃前記辰吉方より切昆布一俵時價二圓五十錢同六日午後七時頃同町本町木炭商佐藤熊藏方より木炭二俵時價二圓を竊取し現物を自宅床下に隱し置きたる外二日午前四時字仲町雜貨商南勝衛方軒下より木炭二俵八日午後六時頃同町本町綿屋鈴木宗平方より綿一本時價一圓五十錢を竊取仲町鈴木重太郎方勝手より甲州丸煙草入一圓時價拾圓を竊取せる事を自白其他餘罪ある見込

平署の年末特別警戒

鼠賊橫行頻激

歲末も刻々迫つて平町地方は不景氣續きとは言へ師徒特有の忙しい氣風が漂ひ始め商店街のあちこちには早くも歲末投賣、蔽拂ひ大賣出し等の赤旗、青旗が見た目だけは景氣よさそうに飜へつてゐるが例年此頃から市內の雜踏をぬて込んで橫行する萬引やコソ泥の群が逐年增加してゐるので平署では近く市內の取締特別執行を開始することとなつた

炭礦坑夫が盜みの常習

舊惡を暴露

石川郡澤田村大字十三線二生れ當時石城郡湯本町字上町六九高坂炭礦雜役夫竊盜前科三犯關根長吉(三二)は二日午後十時頃平町を徘徊中擧動不審の廉で檢擧取調を受けた結果昨年五月中同人の生れ故鄕の遠藤久作方に忍び入り白米四斗を竊取した外本年九月頃までに前後八回價格百餘圓の竊盜を働いたことを自白した

比佐代議士

郡下で演說會

本縣選出比佐代議士は本部より司法參與官井本常助氏を招ぎ江名、小名濱、上遠野に於て演說會を催すと

平消防組の非常召集

けふ無事終了

平町舊警察署前の火見櫓の警鐘が今十四日午前五時曉の夢を破つて鳴り響ろくや平署員を初め消防組員は矢の如く飛び出し各消火栓の部所に着く一般町民はスワ火事ではないかと驚ろくものもあつたがこれは豫報の如き平消防組の非常召集で結果は豫想以上の好成績を示し荒井平署長の講評訓示があり無事終了した

平町名刺交換

會費五十錢づつ

平町では恒例による正月元旦の名刺交換會を明年も行ふが從來會費七十錢であつたのを金五十錢に緊縮すると、尙同町では年末年始にあたり贈答を全廢するやう町內に印刷物をまわした

四倉座の人氣

四倉座に於て十四、十五日の兩日七五三の祝として午后七時迄の入場者に景味豊富な福袋を進呈すと活動呼物として、狂戀呪文凱歌、大江戶の最後

常盤屋の福引

平町一丁目常盤屋時計店では來る十五日より卅日迄大々的に時計廉賣福引附大販賣をする由

平町豫備教育

平町では十四、五兩日午前八時から第一小學校講堂に於て入營兵の豫備教育を施行するが講師は山崎分會長藤田花澤の三氏であると

痔の最高內服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角 山野邊藥局

若柳流舞踊之名手
若柳吉郎師
近日中御來平の上當地劇場に於て開演ス
後援 磐城新聞社 磐城時報社

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店 會田時計店
平町四丁目(電話三六三番)

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルツー、ブランク
マルソー、ルージ 生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥舖 たはなし 三番

外科一般(入院隨意)
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

特賣!!
たひら正宗 福島縣淸酒品評會一等賞受領
花春 同 優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番